

令和 4 年 8 月 31 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02317

研究課題名(和文) 東アジアにおける父親の育児環境と父親支援の比較研究

研究課題名(英文) The Environment of Parenting of Fathers in the East Asia and the Comparing Study of Supporting Fathers

研究代表者

小崎 恭弘 (KOZAKI, Yasuhiro)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20530728

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、東アジア諸国における父親の育児環境を理解し、父親を支援する方法を検討することである。韓国とシンガポールで現地調査とインタビューを実施し、日本の各地での父親の活動やインタビューと比較を行った。また、東アジア4カ国(中国、台湾、韓国、日本)において、それぞれ300名の父親を対象にアンケート調査を実施した。父親の環境や意識と支援について、各国の特徴と共通項や差異が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東アジア各国で大きく少子化の進行が見られる中、子育てにおける父親の位置付けや、子育て状況や父親自身の意識については、これまでほとんど調査対象とされてこなかった。今回東アジアの各国と我が国の父親の状況について調査ができ、それぞれの国の特徴や差異が確認できた。またそれらの共通項や違いが明らかになったことにより、それぞれの国の文化や意識に合わせた父親支援の必要性が明確になったことは大きな意義である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to understand the child-rearing environment of fathers in East Asian countries and to examine ways to support them. Field surveys and interviews were conducted in Korea and Singapore, and comparisons were made with the activities and interviews of fathers in various parts of Japan. We also conducted a questionnaire survey of 300 fathers in each of the four East Asian countries (China, Taiwan, Korea, and Japan). Regarding the environment, awareness and support of fathers, the characteristics, commonalities and differences of each country were clarified.

研究分野：保育学

キーワード：父親 父親支援 東アジア ジェンダー 国際比較

1. 研究開始当初の背景

現在東アジアの父親に関する調査研究はほとんど取り組まれていない。子育て家族のソーシャルサポートについての研究（七木田 2016）、中国の保育環境と父親の意識調査（伊藤 2014）などが見られるが、父親の育児や支援についてわが国と比較した研究は見られない。「儒教思想」に基づき文化形成がなされている東アジアでは、伝統的な家族観の下で夫婦関係・育児スタイルや家族関係が作られている。激変する経済発展、社会変革の中でそれらの家族観や子育て意識に大きな変化が訪れている。また世界的に見ても東アジア地域の少子化は深刻な社会課題として捉えられている。中国が一人っ子政策を 2017 年に廃止し、韓国、シンガポール、香港では合計特殊出生率がわが国より低く世界的な少子化地域となっている。少子化への対応、また子供達の豊かな生育環境の創出は、わが国だけでなく東アジア全体においても重要な課題であり、大きな関心が寄せられている。また母親とは違う存在として父親の子育てのあり方は、少子化や社会的な子育ての根本的な意義や価値観に大きな変革をもたらす可能性を含んでいる。少子化対応のみならずワークライフバランスの実現、女性の社会進出など、東アジア全体の社会、家族、子育ての変化を、父親の育児環境とその支援のありようを調査し、もってわが国における父親支援の独自性を明確にし、より効果的な父親支援のあり方を学術的に明らかにする。

2. 研究の目的

本研究は東アジアにおける父親の子育て環境と意識の把握と、それに基づく国際比較を通して各国とわが国の父親を取り巻く環境や意識の共通点、差異を明らかにする。またそれらを元にそれぞれの国や文化に合わせた効果的で実現可能な父親支援のあり様について明確にし、具体的な方法や取り組み、システムについて提言を行うことを目的として行う。

3. 研究の方法

・各国の父親育児環境実態調査

インタビュー調査国は韓国、シンガポールの 2 カ国を対象とする。これらの国の現地調査を行い、インタビュー資料の提供を得る。具体的には各国の「人口動態」「経済・教育・保育の取り組み」「出生と子育て支援政策」「男女のジェンダーバランス」「父親の労働、生活環境」「父親の育児支援の取り組み」これらに関しては、各国の政府機関への協力を依頼している。これらより各国の基礎的な父親の環境と支援の取り組みを明らかにする。

またデータの収集は対象となる東アジア 3 カ国（中国、台湾、韓国）において、それぞれの国における状況調査を海外調査を専門とする業者に委託して収集を行なった。共通の項目を提示し、現地のスタッフが各国の状況、取り組み、制度などについてレポートする。

・父親と父親支援に関する質問紙調査

父親調査 各国の 6 歳未満の子供を育てている父親を対象としてアンケート調査を行う。調査対象者は、各国それぞれ 300 名。調査会社を利用して実施する。質問内容は、「生活と職業に関する項目。夫婦と家族に関する項目。子育てと子供に関する項目。子育ての環境や阻害に関する項目。プロフィール。」である。それぞれの地域特性を加味し各国を代表する特徴的な地域を

検討している。

同じ少子化の進行している東アジア各国の父親と父親支援の取り組みについては、これまであまり研究の対象とされておらず、どのような状況や実態であるかということが明確ではない。本調査は文化的類似性を持つ東アジア各国とわが国を相対化し、父親の育児意識や社会環境に対する意識を比較検討することにより、わが国および東アジア各国の父親を取り巻く状況の理解と父親支援の方向性を明らかにする。

具体的な研究方法は以下のとおりである。

・対象 東アジアの日本、韓国、台湾、中国の4カ国の6歳未満の子どもを持つ父親各国300名ずつを対象とした。

・方法 アンケートは研究者が日本語により作成を行い、リサーチ会社が各国の言語に翻訳を行い、インターネットを活用して実施した。

・実施日 2021年11月に実施

・倫理的配慮 アンケートの開始時に、回答の自由意志の尊重、個人情報の適切な取り扱い、個人や団体を特定しない記載の方法、データの管理の方法、利用の目的などについて記載と説明を行い、承諾をした方だけの回答を得ている。本調査については大阪教育大学倫理委員会の承諾を得ている。

具体的な調査項目は以下のとおりである。

①子育てについて

・子どもと過ごす時間・主な養育者・利用保育サービス

②父親自身の育児について

・実際の育児の関わり方・子育てについての思い・子育てについての不安・理想の父親イメージ

③家族・社会について

・パートナーとの関わり・子育て、家族観について・自国の子育て環境について

④プロフィール

4. 研究成果

(1) 東アジア地域の父親支援の取り組み—政府による制度のあり方を中心に—

【東アジアの比較と少子化】

本調査対象の4カ国について、その概要を比較しまとめたものが表1である。

4カ国を比較して圧倒的に広大な面積と人口を有しているのが、中国である。他国とは比較にならない程の規模である。反対に面積、人口とも最少なものが台湾である。GDPも中国が圧倒的に高く、日本、韓国、台湾と続く。しかし国民一人当たりのGDP比を見ると、日本、韓国、台湾、そして最下位に中国となる。近年の中国の急激な経済成長がうかがわれると同時に、地方と都市部の経済格差や国家国民全体への国益のアンバランスさなどを感じる。少子化や家族の在り方は、その国の経済状況や経済発展のスピードや取り組みなどに大きく影響を受ける。この経済的な視点は少子化の重要なファクターであると考えられる。

各国の出生数はそれぞれの人口に準じている。しかしどの国も合計特殊出生率は1.6以下であり、韓国に関しては0.92となっている。

	中華人民共和国（中国）	中華民国（台湾）	大韓民国（韓国）	日 本
人口	14.5億人	2,360万人	5,178万人	1.26億人
面積	960万km ²	3.6万km ²	10万km ²	37.7万km ²
政 体	人民民主專政	民主共和政	民主共和国	民主主義国
首 都	北京	台北	ソウル	東京
GDP	14兆1,400億ドル	6,050億ドル	1兆6,463億ドル	4兆9717億ドル
GDP/人	1万276ドル	2万6528ドル	3万1246ドル	4万3043ドル
出生数	1,465万人	17.8万人	27.5千人	86.5万人
合計特殊出生率	1.69 (2018)	1.06 (2019)	0.92 (2019)	1.36 (2019)
出生数世界順位	152/202	200/202	202/202	183/202

東アジアのこれらの国は中国の文化思想を取り入れ発展してきた歴史がある。それらは例えば「戸籍」による家制度の継承、儒教思想による長幼の序、男性主義などである。これらの文化的な継承と近代化によるライフスタイルの大きな葛藤が社会変革をもたらしている。これらの変化の一つが少子化であり、新しい価値や社会システムの移行においてこれまで違う取り組みが求められる。その一つが父親への育児支援であり新しい社会のあり方への取り組みであると言える。

(2) 東アジアの父親の意識・育児環境調査より—日本,台湾,韓国,中国の比較検討—

我が国の少子化の進行は止まる様子がなく、2020年の出生数は84万人と過去最低であり、2021年の出生数もそれらを下回ると予想されている。また2011年以降日本の人口は減少し続けており、2020年の人口自然減数は5.3万人となっている。本格的な人口減少社会のフェーズに入っている。

しかし世界規模において人口は増加している。国連経済社会局人口部が発表した『世界人口推計2019年版:要旨』(1)によると今世紀末期ごろには、ほぼ110億人になると予想されている。この増加は地域的な偏りが指摘されている。特に東アジア地域が世界的に見て、極めて深刻な少子化が進行している。表1は東アジア各国の概要を示している。合計特殊出生数も人口置換水準の2.07を大きく割っており、少子化の進展が見られる。また出生数世界順位も下方に固まっている。東アジア地域の少子化の現状が見受けられる。

① 子育てについて

育児時間は一週間の平均について尋ねた。平日、休日ともに日本が最も少なく、他の国の半分程度となっている。

育児全体における母親、祖父母等と父親の担当割合を尋ねた。日本が低いことが見て取れる。割合の「0~10%」において特に顕著である。

② 父親自身の育児について

具体的な育児の内容について7項目をあげ、これらの頻度について尋ねた。そして「1.ほとんど毎日するを4点、2週に半分程度するを3点 3.時々するを1点 4.全くしないを0点」として、得点化した。各項目の平均点は日本が最も低く、台湾が最も高い。

理想とする父親イメージについて尋ねた。各国とも「頼りになる」が一番高い。「友達のように」は日本が他の3国と比較して低くなっている。

② 家族・社会について

自国の子育てに関する社会環境について6項目を挙げて尋ねた。そして「1.とてもそう思うを4点、ある程度そう思うを3点 3.あまり思わないを1点 4.全く思わないを0点」として、得点化した。韓国が最も低く、中国が最も高い。1.0ポイント程度の差がある。

3.考 察

少子化の進展が著しい東アジア各国ではあるが、父親の子育て状況や意識は、それぞれの国独自の特徴や意識がある。

それぞれの国の特徴を以下にまとめる。

【中国】子どもの数が最も少ないのが特徴的である。父親の育児の関わりが高く、子育て環境の充実度が高い。

【韓国】合計特殊出生率が世界で最も低い。子育ての社会環境の未整備の部分がある。

【台湾】育児時間が平日、休日共に最も長い。直接的な育児の関わりも多く、実際に子育てに関わっている。

【日本】育児時間が極端に短く、育児の関与も低い。育児の担当割合も、最も低く育児に関わりにくい環境が見られる。子育て環境も充実しているとは言い難い。

東アジアの父親を取り巻く状況は一様ではない。中国などは社会環境の充実を感じているものの、実際の子どもの数は決して多くはない。また我が国の男性の育児の有り様の脆弱性も、他国との比較の中でより鮮明になった。少子化への対応が、単に一要因や何か特定の原因のみで解消できないことの示唆を得られた。

各国の父親を取り巻く子育て環境は全てが充実したものではなく、その内容や取り組みについても各国独自の取り組みが見られる。これらを踏まえた上で他地域や国との比較検討を行うことで、今後よりこの地域。各国、日本の特徴が明確になると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小崎 恭弘	4. 巻 23号
2. 論文標題 子育て×男女共同参画～夫婦・社会で支える～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 マッセ大阪 研究紀要	6. 最初と最後の頁 59-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹原 健二, 小崎 恭弘, 高木 悦子, 阿川 勇太	4. 巻 6(3)
2. 論文標題 母子を支える父親への支援の必要性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 母子保健情報誌	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木悦子、小崎恭弘	4. 巻 -
2. 論文標題 全国基礎自治体の父親支援実施の現状に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 令和2年度 厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業) 分担研究報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小崎恭弘、高木悦子	4. 巻 -
2. 論文標題 企業における父親支援の既存制度の把握 イクボス企業同盟の調査より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 令和2年度 厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業) 分担研究報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小崎 恭弘
2. 発表標題 育児に関わる父親の意識 積極的な育児への関与は父親に何をもたらすのか?
3. 学会等名 第73日本保育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Etsuko TAKAGI, Yasuhiro KOZAKI
2. 発表標題 Identifying the factors of Japanese fathers' happiness, who actively involved in childcare, with perspectives on maltreatment prevention by mixed methods
3. 学会等名 4-digit Session 3080.0 APHA (American Public Health Association)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野澤祥子・真田美恵子・李 知苑・岡部 悟志・高岡純子・大久保圭介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・遠藤利彦・秋田喜代美
2. 発表標題 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査2019(4) 父母のネガティブな養育行動の相互関連性に関する検討
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真田美恵子・李 知苑・岡部 悟志・高岡純子・大久保圭介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美
2. 発表標題 「乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査2019(2) 子育てに対する母親のアンビバレントな感情と養育行動に関する検討」
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高木悦子・小崎恭弘
2. 発表標題 育児に積極的な父親の健康度に関する要因の検討
3. 学会等名 第8回公衆衛生看護学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小崎恭弘
2. 発表標題 特別公演 パパの子育て、家族の子育て～みんなで子育て考えよう～
3. 学会等名 第25回日本保育保健学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小崎 恭弘
2. 発表標題 東アジアの父親の意識・育児環境調査より 日本,台湾,韓国,中国の比較検討
3. 学会等名 第75回日本保育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小崎 恭弘
2. 発表標題 東アジア地域の父親支援の取り組み 政府による制度のあり方を中心に
3. 学会等名 第74回日本保育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高木悦子、小崎恭弘、阿川勇太、竹原健二
2. 発表標題 全国基礎自治体に対する父親支援実施状況調査
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高木悦子、小崎恭弘、阿川勇太
2. 発表標題 コロナ禍における全国自治体での母子保健事業および父親支援の実施状況の調査
3. 学会等名 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Etsuko TAKAGI, Yasuhiro KOZAKI
2. 発表標題 Identifying the factors of Japanese fathers' happiness, who actively involved in childcare, with perspectives on maltreatment prevention by mixed methods
3. 学会等名 APHA2020 Online
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小崎 恭弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人大阪府市町村進行協会	5. 総ページ数 14
3. 書名 マッセ大阪研究紀要 第23号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

基礎自治体における父親産前教室の親準備性教育の取り組みについて
<https://www.blog.crn.or.jp/report/02/259.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------